

令和 5 年 8 月 4 日

普通期稲作情報 第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

7月の平均気温は平年に比べ1.4℃高く、降水量は平年比156%と多く、日照時間は平年並みでした。現在、水稻の生育は平年に比べてやや早くなっています。

◎品種別出穂期の予想

★夢つくし	：8月 8日頃	（6月10日田植え・平坦地）
★元気つくし	：8月20日頃	（6月20日田植え・平坦地）
★ヒノヒカリ	：8月27日頃	}（6月20日田植え・平坦地）
★ツクシホマシ	：8月31日頃	

1. 水管理（こまめな水管理で、台風・高温対策を！）

- （1）中干し終了後～穂ばらみ期、穂揃い期～落水期までは、間断かん水を行い、根の健全化を図ってください。
- （2）幼穂形成期（穂肥の時期）～開花期にかけては、水稻が水を最も必要とする時期です。中干し後は間断かん水とし、特に出穂・開花期の水を切らさないよう十分注意してください。
- （3）台風襲来時は、深水管理をして下さい。台風通過後も、水稻の水分吸収が盛んになるため、数日間は水を切らさないよう注意してください。

2. 病虫害防除

【いもち病】

一部のほ場で、葉いもちの発生が見られます。
発生を確認したほ場では、早急に補正防除を徹底してください。

【トビイロウンカ】

海外飛来性害虫のトビイロウンカの飛来日は7月3日です。現在のところ発生量は平年並みとなっています。しかし、トビイロウンカは特に秋口から急に増殖することがあるので、今後もほ場でのウンカ類の発生状況の把握に努め、適期防除を行いましょう。

【斑点米カメムシ類】

イネカメムシが早期水稻の圃場でみられており、注意が必要です。発生が多い圃場では、出穂期と穂揃い期の2回防除を行いましょう。また、斑点米カメムシ類の耕種的防除法として畔草刈りを出穂2週間前までに実施してください。

※出穂直前に畔草刈りをする、畦草に生息していたカメムシを本田へ追いやることになり逆効果となりますので、早めの畔草刈りを心掛けましょう。

◎基幹防除【出穂期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	ダブルカットバリダ トレボン粉剤 3DL	いもち病、紋枯病、 ウンカ類、カメムシ類 コブノメイガ	穂揃期まで	3~4kg /10a
液剤 (混用)	ダブルカットバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病	穂揃期まで	1000 倍
	エクシードフロアブル	ウンカ類、カメムシ類	収穫 7 日前まで	2000 倍
粒剤	ゴウケツモンスター 粒剤	いもち病、紋枯病、 稲こうじ病、 カメムシ類、ウンカ類	出穂 5 日前まで (収穫 45 日前まで)	3 kg /10a

◎補正防除【穂揃期防除】

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	キラップ粉剤DL	ウンカ類 カメムシ類	収穫 14 日前まで	3~4kg/10a
液剤	キラップフロアブル			2000 倍
粒剤	キラップ粒剤			3kg/10a
粉剤	スタークル粉剤DL	ウンカ類 カメムシ類	収穫 7 日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤10			1000 倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a

※イネカメムシの防除は、効果の高いエクシードフロアブルやスタークル剤を使用しましょう。但し、スタークル剤については、ミツバチへの影響を回避するため、開花期での防除では使用しないで下さい。

3. ツクシホマレ穂肥施用の目安（6月20日平坦地田植えを基準）

第1回目の穂肥	NK化成2号 20kg/10a	8月8日頃
第2回目の穂肥	NK化成2号 10kg/10a	第1回施用から7~10日後

※基肥でハイエムコート 30 を施用している場合は穂肥は不要です。